

# 自 己 評 価 表

愛媛県立宇和高等学校三瓶分校  
学校番号 (38-1)

<b>教育方針</b>	(基本方針) 人格の完成を目指して、思いやりの心・向上する心・健やかな心を養い、21世紀をたくましく生きぬく、自主的精神に充ちた、心身ともに健康な生徒の育成に努める。 (指導目標) 自己教育力の向上を目指して、基礎・基本の徹底を図り、生徒一人一人の自己実現を促す。	<b>重点目標</b>	(本年度の重点努力目標) 主体性・多様性・協働性を高め「生きる力」を育む ～地域・社会に貢献できる人財となろう～ 1 地域に根ざした学校、地域に貢献できる学校を目指す。 2 個に応じた学習指導を徹底し、進路実現を図る。 3 自ら考え、 <u>協働しながら</u> 行動できる生徒の育成に取り組む。 4 教育活動を通して、健全な心と体を育てる。 5 清潔で美しい学校環境づくりに <u>努める</u> 。 6 教育活動の公開と情報発信に積極的に取り組む。
-------------	---	-------------	--

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学校運営等	地域に密着した学校、地域に貢献できる人財づくり	○生徒・教職員・保護者・地域住民が一体となった学校(人)づくりを進める。 ・生徒の地域へのボランティア活動参加100% A:100% B:90%以上 C:80%以上 D:70%以上 E:70%未満 ・笑顔で元気なあいさつ100% A:100% B:90%以上 C:80%以上 D:70%以上 E:70%未満 ・毎日教職員から声をかけられる生徒100% A:100% B:95%以上 C:90%以上 D:85%以上 E:85%未満 ・三瓶分校へ入学して良かった生徒、入学させて良かった保護者100% A:100% B:90%以上 C:80%以上 D:70%以上 E:70%未満	C	・コロナ禍で地域行事が中止や延期になる中、感染状況を見ながら6割以上の生徒がボランティア活動をしている。 ・教員から声をかけられる生徒は1.5ポイント増加しているにもかかわらず、笑顔で挨拶を交わす割合が9ポイント減少している。マスク生活が長く続いている社会状況と飛沫感染予防意識も影響しているのではないだろうか。 ・9割以上の生徒、保護者が三瓶分校に入学したこと、入学させたことに満足している。	・地域依頼に応えるべく、幅広い生徒に参加を促していき、地域理解・地域財産に触れる機会を与える。 ・人間関係の構築はまず挨拶を交わすことを理解させ、実践・指導していく。 ・これからも生徒一人一人を大切に思い、声かけを継続していく。そして、満足のいく学校生活へつなげていく。
		○学校行事への保護者の参加率を高める。 ・保護者の学校行事への参加・協力100% A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:60%以上 E:60%未満 ○地域との協働に努める。 ・生徒・教職員の地域行事への積極的な参加 ・市や町、公営塾と協力体制の整備による三瓶分校の魅力化 ・学校の存続と生徒の確保	B	・保護者の学校行事への参加・協力については、4.2ポイントの増加となった。 ・コロナ禍で地域行事が中止・延期が多い中、開催された行事については、参加できた。初めての取組(マリンスポーツクラスマッチ・イルミネーションイベントなど)も地域の協力のおかげで盛大に実施でき、学校の魅力発信ができた。	・保護者が興味を持つ内容を行事の中に組み込むようにする。 ・継続して、学校行事や総合的な探究の時間に地域、公営塾に入っただけ。 ・引き続き、学校の魅力を周辺中学校にアピールしていく。
	○積極的に本校の情報を発信する。 ・HPをリアルタイムで更新する。 ・メディアを通しての積極的な魅力発信 ○教職員の多忙化を改善する。 ・時間外勤務の短縮 A:1か月あたり45時間以内 B:60時間以内 C:70時間以内 D:80時間以内 E:80時間超え	A	・開校日はほぼ毎日HPの更新ができた。 ・コロナ禍において、報道機関の取材規制や感染症拡大防止の対策などがあり、予定がキャンセルされたことも数回あったが、現状の許す限り発信していただいた。 ・時間外勤務時間については12月までの平均は一人当たり20時間ちょうどであった。	・学校の魅力をSNSやメディアを媒体として発信する。 ・個々のライフワークバランスを尊重し、手を差し伸べる一言が言える職場における良好な人間関係づくりを目指す。	

※ 評価は5段階 (A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった) とする。

# 自 己 評 価 表

愛媛県立宇和高等学校三瓶分校  
学校番号 (38-1)

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学習指導	個に応じた学習指導 -確かな学力の定着と向上-	○ICT機器の活用など、生徒の学習意欲と理解度を向上させる指導法の研究に取り組む。 ・生徒の授業満足度について A:100% B:99~80% C:79~60% D:59~40% E:40%未満	B	・授業アンケートで、「授業の内容が理解できている」の評価が4.11ポイントだった。 ・ICT機器を活用して、生徒が興味・関心を持って学習し、理解度を向上させる取り組みが見られた。	・今後もICT機器を活用するなど、さらに生徒が興味・関心を持つ授業、分かりやすい授業を目指して、全教員が自己研鑽に努める。
		○生徒自ら学ぶ意欲を育てる。 ・家庭学習時間毎日2時間以上 ・毎日の課題と確認の徹底 ・生徒個々の学力と進路希望に応じた個別指導	C	・学習時間調査では、昨年度より60分程度減少し、年々減少している。	・進路目標の実現のために努力することの必要性を認識させ、学習に対する意識を向上させる。 ・適宜、課題を与えたり確認テストを実施して事後指導も徹底させることで、家庭学習の機会を与え、その重要性を認識させる。
		○アクティブラーニングを取り入れた授業の研究と実践を行う。 ・校外研修や他校視察を実施 ・ICTを活用した授業改善の実施	A	・10月に学校訪問があり、各授業でICTを活用した授業を実践して、県教育委員会からも高く評価していただいた。 ・スタディーサブリを長期休業中の課題及び課題テストに活用した。	・スタディーサブリ、及び普段の授業でのICT機器の活用について、より効果的に活用できるように研究を重ねる。
生徒指導・特別指導	三瓶スピリットの育成と向上(思いやりの心、向上する心、健やかな心)	○部活動、ボランティア活動を通して確かな三瓶スピリットを育てる。 ・積極的にボランティア活動に参加をさせる。 A:35名以上 B:30名以上 C:20名以上 D:10名以上 E:10名未満(延べ人数)	B	・感染症対策等で十分な郊外での活動ができなかったが、生徒一人ひとりが様々な学校行事に際して、自主的な活動に心がけてくれた。 ・ボランティア活動参加の延べ人数は21人だった。	・各種ボランティア活動の生徒への紹介や参加への呼び掛けを増やしていきたい。
	特別活動(部活動)の活性化	○生徒自身による自主的な学校行事、生徒会行事を推進する。 ・一人一役運動の推進と徹底 ・部活動加入100% ・各種大会・発表会等への参加、2回以上	A	・すべての生徒が部活動に参加し活動できた。運動部においては、宇和高との合同チームも徐々に軌道に乗り、役割を持って活動できている。また各部でそれぞれの大会に参加し活躍している。	・宇和高への移動方法等をさらに工夫して生徒がより積極的に取り組める環境を整備していきたい。
	安全・衛生指導の徹底	○安全指導の徹底を図る。 ・月1回、教職員による街頭指導を実施する。 ・手洗いや手指消毒の習慣化を図る。	A	・月1回の街頭指導を実施することができた。 ・長引く新型コロナウイルス感染症に対する感染回避行動が身につけて、習慣化できている。	・生徒が減少して街頭指導での効果が少なくなってきた部分もある。場所の選定を工夫していきたい。 ・マンネリ化にならないよう、常に感染対策に心掛けていけるよう工夫していきたい。
	美しい学校環境づくり	○学校生活を通して、環境美化に対する意識を高める。 ・清掃活動以外の時間で、1日1回、学校美化に取り組む。 A:70% B:60%以上 C:50%以上 D:40%以上 E:30%未満	B	・少ない人数で学校全体の清掃活動に取り組んでくれた。もう少し普段から目についたごみや汚れているところへの心配りができるようにしてほしい。 ・清掃活動以外の学校美化達成率は66.7%だった。	・イルミネーションのように学外の人を足で運んでもらう中で、よりきれいな分校を紹介できるよう意識付けをして普段からの美化活動に取り組める生徒の育成に心がけていきたい。

※ 評価は5段階 (A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。

# 自 己 評 価 表

愛媛県立宇和高等学校三瓶分校  
学校番号 (38-1)

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
進路指導	個に応じた進路指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全教職員・保護者が一体となって進路指導を進め、進路を実現する力を養う。</li> <li>・志望校合格100%・就職内定100%</li> <li>A:100% B:90%以上 C:80%以上</li> <li>D:70%以上 E:70%未満</li> <li>・スタディサブリの積極的活用</li> <li>・進路に関する三者面談の充実</li> <li>・在学中、各種検定一人一検定以上合格</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・志望校合格86%(12月末)、就職希望者内定100%だった。</li> <li>・夏季及び冬季休業中に年2回の保護者懇談(三者面談等)を実施できた。</li> <li>・夏季及び冬季休業中課題としてスタディサブリの配信動画視聴を設定できた。</li> <li>・各種検定合格生徒(1年12.5%、2年100%、3年100%)だった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者と学校が一体となって進路指導の更なる充実に努める。</li> <li>・検定取得、資格取得意識の高揚を図る。</li> <li>・進路指導を全教員が共通認識を持って取り組む。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒の進路意識向上のため1年次より適切な進路情報の提供や啓発を行う。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒一人一人の進路希望を理解し、オープンキャンパス情報等を適宜提供できた。各学年で進路に関するホームルーム活動が実施された。進路室内の資料を整理・充実させた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参考となるWebサイトの紹介や説明、ガイダンス等を行うことで、低学年から将来の進路デザインを構築できる活動を充実させる。</li> </ul>
	キャリア教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○職業指導や就業体験活動の充実を図り、望ましい職業観・勤労観を養う。</li> <li>・応募前職場見学の充実</li> <li>・仕事体験学習やオープンキャンパスへの参加促進</li> <li>・ハローワークとの連携強化</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年就職希望者は企業説明会や応募前職場見学を行い、受験先を決定した。</li> <li>・1年生は2学期に仕事体験学習を行った。</li> <li>・3学期に1・2年生対象の職業説明会を開催予定である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・低学年からオープンキャンパス等への参加を積極的に支援する。</li> </ul>
人権教育	人権学習の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○人権・同和教育HRの年3回実施や人権講演会を通して、人権意識の高揚を図る。</li> <li>○ハンセン病学習と演劇を通じて、感染症の差別の歴史を学び、コロナ禍での人のあり方について学ばせる。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公開授業は中止となったが、例年通りHRと人権講演会を実施することができた。</li> <li>・中学校・高校で同じ演目を上演し、ハンセン病と地元の歴史について理解を深めることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・HR年3回と人権講演会は次年度以降も実施する。</li> <li>・毎年、人権劇をすることは難しいため、人権委員が姫塚の慰霊祭に参加させてもらうことで、地元の歴史とハンセン病についての理解を深める。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>○人権だよりを毎学期発行し、人権委員会を中心とした生徒主体の啓発活動を充実させる。</li> </ul>	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒に感想は書いてもらったが、生徒主体に作成させることができず、教員主体となってしまった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒ができるだけ自分の力で作成できるように、教員がサポートしていく。</li> </ul>
	情報モラル教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業やホームルーム活動を通して、携帯電話やネットの適切な利用法を理解させ、他者の人権を尊重する態度を育てる。</li> </ul>	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度、一人一台端末が導入され、情報機器についての理解は深まったが、折を見ての講演会等ができなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・折を見て、講演会入れ、また授業においても情報モラルについての話を取り入れる。</li> </ul>

※ 評価は5段階 (A: 十分な成果があった B: かなりの成果があった C: 一応の成果があった D: あまり成果がなかった E: 成果がなかった) とする。

# 自 己 評 価 表

愛媛県立宇和高等学校三瓶分校  
学校番号 (38-1)

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
現職教育	研修の充実	○審査中の校内研修が学習指導の妨げにならないように配慮するとともに、 <u>研修の内容がニーズにあったものになるよう工夫する。</u>	C	・希望する研修内容についてアンケートを取り、ニーズに合ったもののができた。	・次年度からもニーズに合ったもの、喜ばれる研修を企画したい。
		○公開授業で「授業の見どころ」を設定することで、授業の改善を図るとともに参観者による授業評価の一助とする。 ○教員、訪問者の総授業参観数（授業の一部参観も含む）をチェックすることで、相互の授業研究を促し、授業改善に役立てる。 A:50コマ以上 B:40コマ以上 C:30コマ以上 D:20コマ以上 E:20コマ未満 (公開授業1回あたり平均)	D	・公開授業は第1,5回がコロナ禍で中止となった。「授業の見どころ」は、参観者による評価の一助とするとともに、授業者には公開授業を研究授業として捉えてほしいと願って設定したが、効果は分からないが、うまく行っているように感じている。授業参観者数については、公開授業1回あたりの授業参加数は28コマだった。外部からの参加者が少なかったことと教員間の相互授業研究も進んでないことが分かった。	・外部からの参観者が増えないと、校内の相互参観だけでは目標は達成できないので、公開授業の時に、何か目玉となるもの設定して外部参加者が増えるようにしたい。（講演会と抱き合わせにするなど）また、公開授業を研究授業と捉えて実施しているかどうかは、参観数を単にチェックすることでは測れないので、そうしてもらうように引き続き教員に働きかけたい。
保健・安全管理	保健活動の充実	○月1回、生徒の健康課題に沿った「保健だより」を発行し、 <u>保健指導の資料として活用する。</u>	B	・月1回、「保健だより」を発行し、担任へ保健指導の資料として活用してもらった。内容も、生徒の健康課題に沿ったものとなるよう工夫した。	・月1回の発行に加え、委員会を活用して生徒が主体となり健康課題に取り組める記事を入れる工夫をしたい。
		○生徒保健委員会活動を充実させ、健康に関する情報発信と意識向上に努める。	B	・県のフェーズに合わせて、新型コロナウイルス感染症予防の校内放送を行った。日常の活動では、健康日誌の記入、CO2モニターで教室の換気の励行、冬季は加湿器を管理し、生徒の健康の維持・意識の向上を図った。	・月1回保健委員会を開催し、校内放送や掲示物の作成、換気等の環境衛生活動を実施し、委員会の活動をより充実させることで、三高生の健康の維持増進を図りたい。
	安全管理の徹底	○月1回の安全点検を実施し、安全管理の徹底を図る。	B	・月に1回安全点検を実施し、必要な箇所は速やかに修繕し、事故等の未然防止を図った。	・月1回安全点検を実施し、必要箇所の速やかな修繕と、安全管理を推進する。
事務	教育行政職員としての適切な業務の遂行	○分校化により本校と予算が一本になったため、本校と連携して予算を有効に活用する。	B	・コピー用紙の購入や印刷物の製本を本校・分校まとめて行うことで、それぞれに行うよりも約50,000円の経費削減となり、予算を有効活用することができた。	・本校と連携しながら更なる経費節減に努め、教育活動への効果的な予算執行をする。
	環境整備と安全管理	○校内の修繕箇所の早期発見、早期対応を図る。	B	・安全点検や職員間の情報共有により、修繕箇所を早期に把握し対応することができた。	・生徒及び教職員の安全を第一に考え、引き続き設備環境の向上に努める。
		○今年度の学校訪問に向け、 <u>衛生的で美しい学校環境づくりに努める。</u>	B	・樹木剪定及び除草作業が必要な時期に適切に実施できた。	・より一層、美観を考慮して環境整備を行う。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。